

リニア新幹線工事は事業再評価し、中止を！

党国会議員団リニア中央新幹線対策チームは21日、名古屋市中区で、リニア工事の事業再評価を求める交流懇談会を開き、沿線の静岡、岐阜、愛知、三重、長野各県の住民と各地の問題点や住民運動を交流しました。

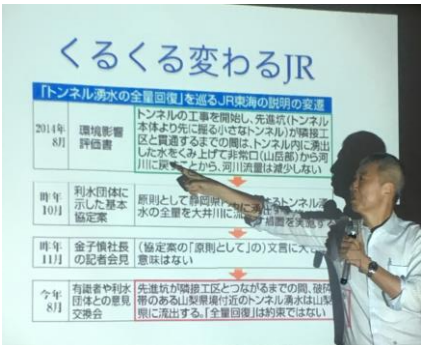
もとむら伸子、高橋千鶴子、清水忠史各衆院議員、井上さとし、ただた良介両参院議員、しまづ幸広前衆院議員（比例候補）が参加し、党地方議員や党機関のメンバーも参加しました。

◆大井川の水を戻せ

大井川の水が毎秒2トンも減少するため本体工事が未着工の静岡県の、リニア新幹線を考える県民ネットの林克代表が基調報告。林さんは、JR東海がアセス準備書で水の減少について、元に戻すと約束していたのに、ここに来て「全量はできない」と言い出したことを批判。水問題が解決しないと着工を認めないと決めている県知事を励まし、運動していくと報告しました。島田市の桜井洋子議員は、同市など大井川流域の8市2町で県と国に意見書を出す取り

◆JRや県に申し入れ、確認文書も

リニアを考える愛知県連絡会の川本正彦さんは「会として市民ネットなどとJR、愛知県に申し入れをしていく。県の担当者とも懇談したい」と報告。長野県南木曾町の坂本満議員は、



町とJRなどで8月に5項目の確認文書を結び今後、水源地など個別に文書で確認すると発言しました。

◆汚染土の処分など

瑞浪市の日吉トンネル非常口の工事で発生したヒ素などの有害物質を含む汚染土を、基準が10倍ゆるい海の埋め立てに使う計画があることが明らかになった問題で、名古屋市の江上博之市議は「大江川の埋め立てに使うのではないかと質問した。汚染土を埋め立てることは許されない」と発言しました。

瑞浪市や春日井市では基準を超える汚染土が仮置きされており、雨などで有害物質が流れ出るのではと心配する声を紹介されました。

名古屋市西区の青木ともこ前市議は、名古屋城付近に断層の可能性が指摘されたにもかかわらず、JRが問題ないとしていることを批判、「国として調査してほしい」と要望しました。愛知県瀬戸市の住民は「土砂の運搬で今後、一日最大270台のダンプが通行するのが5年間続くことになる。最初は説明会をしていたが、今は回覧板だけだ」と発言しました。

また、水源地や川の水枯れ、亜炭廃坑の陥没の危険、美濃帯と呼ばれる有害物質を含む地層、区分所有権の設定の問題など、様々な問題が出されまし

交流懇談会 三重、岐阜、静岡、愛知 党国会議員団

自治体の過大投資 リニアそのものの批判と地域の将来像を

まだ、計画も決まっていない三重県亀山市は、リニア駅誘致の基金を17億余りも積み立てています。福沢みゆき市議は「議会で取り上げるのは共産党だけ。地元の商工会議所以外は、できるまでに生きていないと冷ややか」と紹介。



中津川市は、市の予算に匹敵する400億円をかけて、駅前整備や道路、企業誘致につぎ込もうとしている。木下律子市議は、国が予算を付けて市が補正予算をつくという構

図が何年も続いていると過大投資の危険を指摘しました。

党飯田下伊那地区委員長は「飯田市は夢を描いて91億円かけている。リニア問題を正面から批判する国会論戦を」と要望しました。

◆国会議員・候補が決意

しまづ前議員は「国会の最初の質問がリニアで、最後の質問が高齢者の免許返納だった。リニアでなく地域住民の足をどう確保するか、ひきつづき取り組む」と表明。

高橋議員は「各地の地域を守りたいという思いを、広くつないでいきたい」、清水議員も「リニアは地方創生と矛盾する。残土や水の問題など、生の声を聞かせてもらった」と述べました。

ただ議員は「国土交通委員として各地のリニアを認めない運動を生か

し、国会でもストップさせたい」と述べました。

井上議員は「国家的プロジェクトとして国が支援し、住民には『国の決めたことだから』と押し付けながら、事業者であるJRは私企業だとして、まともな情報も出さない——私たちが当初から指摘してきた問題の害悪がいつそう顕著になっていく。様々な問題を聞いたのでさらに追及したい」と話しました。

本村議員は「水の問題や残土による土砂災害、生命にかかわる問題を抱えているのに2027年というスケジュールありきで強行するやり方は絶対に許されない。公共事業であれば、5年たったら、事業の再評価を行うが、リニアはやっておらず、事業の再評価を求め、地域住民の声を聞けと、国会に届けたい」。